

令和8年度 安芸森林管理署の重点施策

～ 施業効率化・地域貢献・公益重視を一体的に進める取組 ～

令和 8 年 4 月

安芸森林管理署

1. 地域の安全・安心を守る治山対策の強化

国土の保全、水源のかん養など公益的機能の高度発揮に資するため、各種治山事業を実施(R8年度10か所(13.0億円))

- 集中豪雨等の増加で多発化する自然災害から安全・安心な暮らしを守るため、治山事業を実施します。
- 北川村民有林野内で発生した大規模な山腹崩壊等について、H24年より国直轄で奈半利川地区民有林直轄治山事業を行っており、地域住民の方が安全で安心して暮らせる国土づくりに取り組みます。

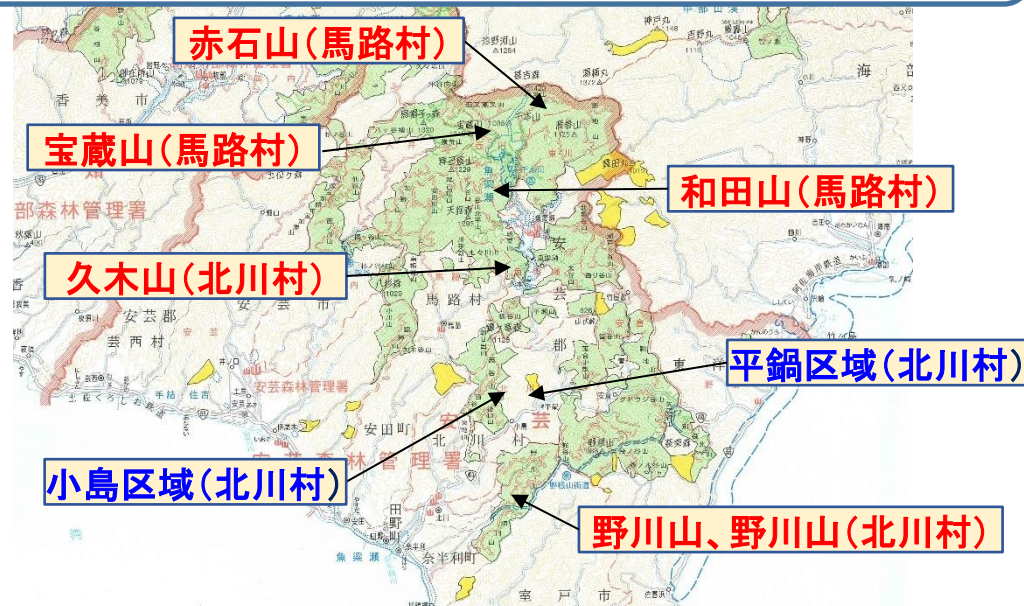
■ 令和8年度治山事業の実施予定

国有林直轄治山

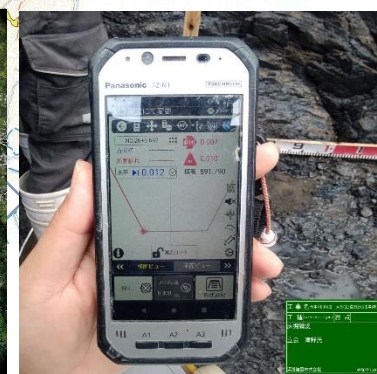
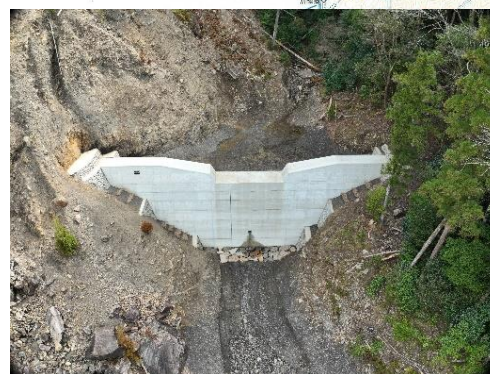
予定箇所	箇所数	事業費
野川山、野川山、久木山 (北川村) 赤石山、宝蔵山、和田山 (馬路村)	6	6.3億円

民有林直轄治山(奈半利川地区)

予定区域	箇所数	事業費
平鍋区域、小島区域 (北川村)	4	6.7億円



R7年度完成【明善山(2087)災害関連緊急工事】



R7年度完成【奈半利川地区大谷区域】及び ICT施工状況

2. 造林・保育作業の省力化・低コスト化

再造林の省力化・低コスト化に資する取組を進め、その成果を民有林に広げることで地域の林業成長産業化に貢献

- 下刈りの回数の削減 繁茂状況から実施の要否を精査し、回数の削減に取り組む。あわせて、冬下刈りにより労働負担の軽減と作業効率の向上に取り組めます。
- 低密度植栽 保安林の指定施業要件の下限に合わせ、低密度植栽に取り組めます。
- 伐採と造林の一貫作業 伐採から植付までの一括契約による低コスト化を進めます。
- コンテナ苗の使用 造林の省力化・低コスト化が期待されているため、コンテナ苗100%使用に取り組めます。

■ 一貫作業システムと従来システム



<一貫作業システムのポイント>

1. 伐採・搬出から植付までの全体作業工程の最適化
2. 伐採後、先進的な林業機械(プロセッサ等)を活用し、集材作業中に枝条等の除去を実施。
3. フォワーダや架線の帰り荷を活用し苗木を運搬。時期を選ばず植栽が可能なコンテナ苗を活用し、伐採後時間をおかずに植付を完了。
4. 一括発注により機械の搬送費や間接費の削減も可能。

■ 安芸森林管理署のコンテナ苗導入

平成29年度以降、新植では100%使用

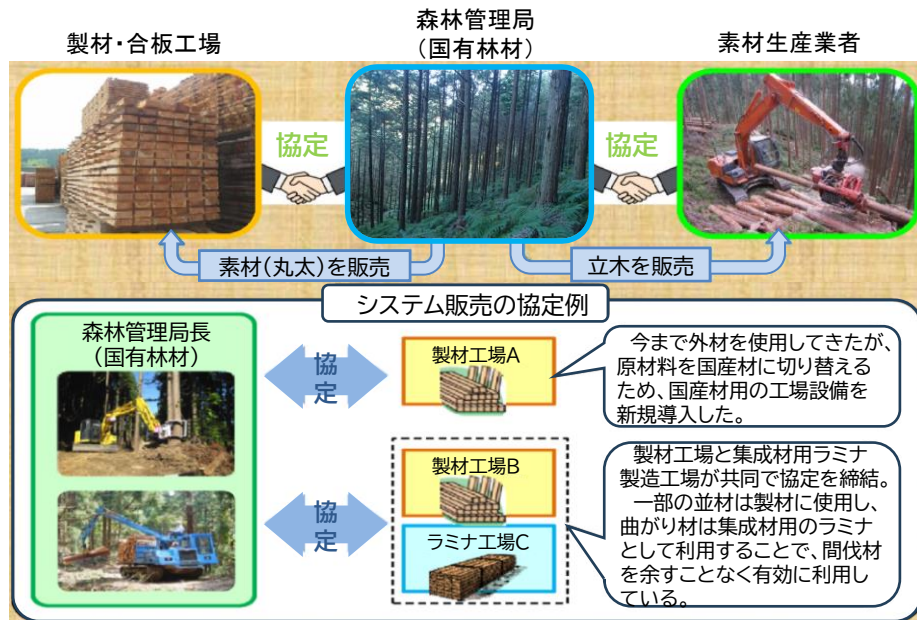


3. 木材の安定供給

地域の需要を踏まえ生物多様性に配慮しながら、計画的に木材を生産し、国有林材の安定的な供給に努めます。

- 国有林材の安定供給 素材販売や立木販売を行い、木材の持続的・計画的な供給を通じて地域の林業・木材産業の活性化に努めます。
- 安定供給システム 国産材の安定的な供給の実現に向け、国有林材(素材)の安定供給システム販売等を推進していきます。
- 生物多様性保全の配慮 生物多様性保全に配慮した施業にも取り組みます。
- 複数年契約事業 安定した事業量を確保することで、林業事業体の経営や雇用の安定及び効率的な実施に資するため、発注を推進していきます。
- 樹木採取権制度 安芸森林計画区において、新規需要動向調査(マーケットサウンディング)により、木材需要の状況などを確認し、その結果を踏まえ樹木採取区の指定等の可否を検討します。

■ 国有林材の安定供給システム販売の仕組



※システム販売の対象は、素材(丸太)と立木。協定の相手方は、製材工場、木材加工業者、原木市場、素材生産業者等。
 ※立木のシステム販売は、複数年(3年以内)の協定、搬出期間は売買契約から原則3年以内。

■ 安芸森林管理署の国有林材の供給量 (単位:万m³)

	R8 (予定)
素材販売(丸太材積)	4.6
(うちシステム販売)	(2.1)
立木販売(立木材積) (分育含まない)	3.4

■ 安芸森林管理署の複数年契約地区

事業年度	所在地	国有林名	面積 (ha)	予定数量 (m³)
R6 ~ R8	北川村	大谷受領山	83	10,000
R7 ~ R9	北川村	躑躅尾山	99	13,000
R7 ~ R9	北川村	グドウジ谷山	69	9,000
R7 ~ R8	室戸市	大道南山	49	6,000
R8 ~ R9	馬路村	久木山外	33	5,000

4. 森林・林業を担う人材育成(現地検討会等の開催)

林業事業体の育成、市町村林務担当者のスキルアップに向け、各種現地検討会を開催

- 資源の有効活用と収益性の高い持続的な林業経営に向けた取組として、令和4年度から継続して生産事業体と木材市場による素材生産における採材技術の向上を目的とした現地検討会を開催しています。
- 将来の森林・林業を担う人材育成を目的に、林業関係の高校、大学等を対象に現地体験学習等を実施、令和8年度も引き続き体験学習やインターシップを予定しています。

素材生産事業の技術向上に向けた現地検討会(令和7年10月16日)



森林作業道の線形について検討



有利な採材方法の検討



現地説明(民有林治山現場)



林業関係高校生の現地体験(千本山)

インターシップの受入れ

令和8年度の現地検討会開催予定

開催予定月	検討会名	国有林名	主催
令和8年11月	採材研修	未定	安芸森林管理署

※ 上記は、現地事情や事業進捗状況等により追加や変更する場合があります。

5. 地域と連携したシカ被害対策の推進

近年深刻化しているシカによる被害による森林への被害を軽減するため、以下の取組を実施

- 平成25年12月に馬路村と、平成30年8月に北川村と、令和8年3月安芸市と協定を締結し、①囲いわな等の無償貸与、②国有林の入林手続の簡素化、③捕獲技術支援により、民有林と国有林が一体となってシカ被害対策を推進しています。
- 北川村との協定については、笠松式くりワナの無償貸与に加え、R2年度より箱ワナ・囲いわなの無償貸与も実施、R6年度からは馬路村にも笠松式くりワナの無償貸与を開始しました。
- これらの取組により、安芸森林管理署管内のシカ捕獲頭数は、平成25年度10頭から令和2年度には420頭をピークに、令和7年度は86頭と落ち着きつつあります。

■ ニホンジカの捕獲頭数の推移(安芸森林管理署管内)

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
捕獲頭数	10頭	41頭	64頭	96頭	127頭	151頭	268頭	420頭	250頭	154頭	110頭	187頭	86頭

※ H28年度に箱わなに
加え、くりわなを導入
※ R7年シカ捕獲マニュアル【設置編】を作成

■ 囲いわな(こじゃんと1号)



■ (笠松式)くりワナ



6. 「レクリエーションの森」の観光資源としての活用

千本山風景林

その優れた自然景観から、全国で93か所の「日本の美しい森 お勧め国有林」や「中芸地域日本遺産～森林鉄道から日本一のゆずロードへ～」の構成要素に指定されています。

また、昭和9年に牧野富太郎博士が訪れ、当時の魚梁瀬営林署の事業所に宿泊し、植物の採取指導を行ったことが記録されています。

今から約90年前に牧野富太郎博士の歩いた道を遊歩道として活用し、地域と協力して観光資源としての魅力の向上を図ります。

野根山街道

土佐藩の参勤交代路として利用した奈半利町から東洋町にかけての街道で道中に関所跡等数々の名所、史跡、伝説があり、ハイキングコースとしても利用されており、地元の小学校による「自然を親しむ体験」と「地域の歴史学習」も兼ねた散策を行うなど、学校行事としても活用されています。

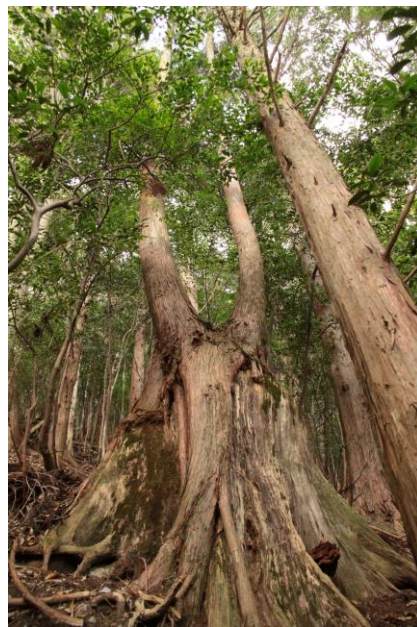
また、街道沿いの段ノ谷山天然スギ群は、室戸ユネスコ世界ジオパークの一部に指定されており、ユニークな天然スギの姿を見ることができます。



【橋の大杉】



【魚梁瀬スギ】



【古株に2本生育している双子二代杉】



【学校行事として散策に活用】